

## 「教職実践演習」の現状と課題

徳田 光治

### はじめに

2013年度から4年生（2010年度以降の新入生）を対象に、教職課程のまとめとして後期の2単位で、必修科目としての「教職実践演習」が開講された。すでに短期大学では、2011年度より先行して実施されているが、多くの課題が指摘されている。本学でも、開設時期や4年生後期での学生のモチベーション維持（一般企業への就職が決定している）を危惧し、シラバスや履修カルテの検討には作業部会を設置して、「総まとめ」としての講義内容を構築した。

しかし、3年目を終える現在、もう一度初心に戻り総括をする必要があり、次年度のシラバスの作成をするタイミングなので、その現状と課題を整理・報告し皆様の忌憚りの無いご意見を拝聴したい。

### 1. 講座の開設

#### (1) 開設の経緯

2008年（平成20年）の文部科学省令第34号の「教育職員免許法施行規則の一部を改正」する省令により、2010年度（平成22年）以降の新入生の教職課程の「教職に関する科目」（29単位）として、「教職実践演習」（後期の2単位）が新設された。

この科目は、当該演習を履修する者の「教科に関する科目」（36単位）および「教職に関する科目」の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を習得したことを確認するものである。そのため、この講座の授業方法については「学生のこれまでの教職課程の履修履歴を把握し、それを踏まえた指導を行うことによ

り、不足している知識や技能を補うものとする」としている。その前提として、具体的には学生のこれまでの教職課程の履修履歴を把握するための「履修カルテ」を作成し、それを踏まえた指導を行う体制を備えることが必要となる。

本講座には、教員として求められる4つの事項

- ① 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項。
- ② 社会性や対人関係能力に関する事項。
- ③ 生徒理解や学級経営に関する事項。
- ④ 教科の指導力に関する事項。

に留意し、学校現場や教育委員会との緊密な連携・協力が必要である。

具体的な講義内容としては、事例研究・模擬授業・グループ討議・現地調査（フィールドワーク）・役割演劇（ロールプレイング）等を取り入れることが適当であるとされている。

## （2）科目の趣旨・ねらい

文部科学省による具体的な授業内容例として、

- ① 様々な場面を想定した役割演劇（ロールプレイング）や事例研究の他、現職教職員との意見交換を通じて、教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務等を理解しているか確認する。
- ② 学校において、校外学習の安全管理や、休み時間や放課後の補充指導、遊びなど、子どもと直接関わり合う活動の体験を通じて、子ども理解の重要性や、教員が担う責任の重さを理解しているかを確認する。
- ③ 役割演劇（ロールプレイング）や事例研究、学校における現地調査（フィールドワーク）等を通じて、社会人としての基本（挨拶、言葉遣いなど）が身についているか、また、教員組織における自己の役割や、他の教職員と協力した校務運営の重要性を理解しているかを確認する。
- ④ 関連施設・関連機関（社会福祉施設、医療機関等）における実務実習や現地調査（フィールドワーク）等を通じて、社会人としての基本（挨拶や言葉遣いなど）が身についているか、また、保護者や地域との連携・協力の重要性を理解しているか確認する。

- ⑤ 教育実習の経験を基に学級経営案を作成し、実際の事例との比較を通じて、学級担任の役割や実務、他の教職員との協力の在り方等を修得しているか確認する。
- ⑥ いじめや不登校、特別支援教育、今日的な教育課題に関しての役割演劇（ロールプレイング）や事例研究、実施視察等を通じて、個々の子どもの特性や状況に応じた対応を修得しているか確認する。
- ⑦ 役割演劇（ロールプレイング）や事例研究等を通じて、個々の子ども  
の特性や状況を把握し、子どもを一つの学級集団としてまとめていく手法を身につけているか確認する。
- ⑧ 模擬授業の実施を通じて、教員としての表現力や授業力、子どもの反応を活かした授業づくり、皆で協力して取り組む姿勢を育む指導法等を身に付けているかを確認する。
- ⑨ 教科書にある題材や単元等に応じた教材研究の実施や、教材・教具、学習形態、指導と評価等を工夫した学習指導案の作成を通じて、学習指導の基本的事項（教科等の知識や技能など）を身に付けているか確認する。

等が期待された。（2012年 中央教育審議会 今後の教員養成・免許制度の在り方についての答申）

### （3）シラバス案

本学園では、上記の指針に対応するために、岩田准教授を中心とした作業部会で以下のシラバス（授業計画案）を作成した。

第1回目 インTRODクシヨN

履修カルテ・教育実習の振り返り、自らの課題や目標を確認・設定

第2回目 講義と集団討論①

教職の公共的使命、専門性

第3回目 講義と集団討論②

学校と学級・ホームルームの1年・1日

第4回目 講義と集団討論③

## 教員の同僚性と校内研修

- 第5回目 講義と集団討論④  
ロールプレイ（さまざまな生徒理解と対応）
- 第6回目 講義と集団討論⑤  
ロールプレイ（保護者・地域への対応、家庭との連携）
- 第7回目 講義と集団討論⑥  
学習指導案の作成上の留意点（教育実習の指導案を資料とする）
- 第8回目 講義と集団討論⑦  
学級・ホームルーム経営案の作成上の留意点
- 第9回目 講義と集団討論⑧  
道徳指導案・進路指導案作成上の留意点
- 第10回目 学校現場の参観・調査①（公立学校）
- 第11回目 学校現場の参観・調査②（私立学校）
- 第12回目 学校現場の参観・調査③（学んだことの交流）
- 第13回目 模擬授業①（教科指導）
- 第14回目 模擬授業②（道徳あるいは特別活動）
- 第15回目 課題達成の確認、まとめ

## 2. シラバス（授業計画）

### （1）受講者数

各学年1000人弱規模の本学において、2年次では約10%の学生が教職科目を受講していたが、4年次には6～7%に減少する。その原因としては、履修単位数の多さ（教職に関する科目が31単位、教科に関する科目が36単位、英語・スポーツウエルネス・情報機器などが10単位、介護等体験が1週間）、教員採用試験の難しさによる学生諸君の不安の表れであろう。

それでも下記に示すように、就職活動と並行しながら多くの学生諸君が4年次の「教育実習」と「教職実践演習」を履修している。なお、「教職実践演習」は

前記のように 2013 年度からの開講である。

第 1 表 「教育実習」と「教職実践演習」の受講者数

年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
国語	24	16	21	13	21	24	37	16	25
社会	52	31	31	28	35	25	18	28	26
英語	12	11	18	12	18	13	18	12	9
合計	<b>88</b>	<b>58</b>	<b>70</b>	<b>53</b>	<b>74</b>	<b>62</b>	<b>73</b>	<b>56</b>	<b>60</b>

## (2) 2013 年度のシラバス

本講座の初年度であるが岩田先生の国内研修年度に当たり、国文学科と英文学科の 37 人でのクラスと、経済学科・経営学科・ヨーロッパ文化史学科・法律学科の合同の 36 人クラスで 2 講座を設置（前者は水曜日 3 時間目、後者は金曜日 1 時間目）した。

東京都教育委員会との連携(統括指導主事から「教員になるには」とのテーマで、教員採用試験・大学で身につけてほしい力等の講演)、現職教職員からの生徒の実情報告(中学校教務部長から「生徒の現状と課題」とのテーマで、教員の役割や中学生の授業と生活等の講演)、成城学園中学校の授業参観(3日間で26コマの授業から、各自1時間を選択)、場面指導におけるグループワーク(4人グループで話し合い、レポートを提出)、卒業生の講演と意見交換会(教職大学院に進学したOBによる体験等)、模擬授業の実施による指導法の修得(次年度に専任教員として赴任する「国語」・「社会」・「英語」の受講生)、履修カルテの作成を主眼として実施した。

第2表 2013年度の授業計画

回	水 3	金 1	授 業 計 画
1	9月25日	9月27日	ガイダンス
2	10月2日	10月4日	東京都教育委員会 佐藤聖一氏 10月4日(金) 18:10 ~ 19:30
3	10月9日	10月11日	成城学園中学校 中村教務部長の講演「生徒の現状と課題」
4	10月16日	10月25日	場面指導① 学習指導のグループワーク 「おしゃべりをする生徒」
5	10月23日	10/30(水)	場面指導② 生徒指導のグループワーク 「反抗的な生徒」
6	11月6日	11月8日	成城学園中学校の授業参観 6日(水) ~ 8日(金)
7	11月13日	11月15日	授業参観を振り返って グループワーク「今時の中学生」
8	11月20日	11月22日	DVD「ブタがいた教室」鑑賞
9	11月27日	11月29日	グループワーク「命の教育」
10	12月4日	12月6日	卒業生の講演「教職大学院」 磯川君 ⇒ 12月2日(月6)
11	12月11日	12月13日	模擬授業①「国語」三浦さん 「社会」中島さん
12	12月18日	12月20日	模擬授業②「国語」藤井さん 「英語」多部君
13	1月8日	12/24(火)	模擬授業③「英語」多部君 「国語」藤井さん
14	1月5日	1月10日	履修カルテの作成
15	1月22日	1月17日	まとめ 定期試験 50点 (参加度20点・レポート30点)

### (3) 2014年度のシラバス

今年度は岩田クラス(木曜日3時間目の27人)とは別時間割(金曜日4時間目の32人)の2講座で実施した。大きな変更点は、教育実習前に前倒して3回の講演会(中学校教務部長・東京都教育委員会・卒業生)を実施し、教育実習への心構えと自覚を促した。また、後期に卒業生OGによる講演会(通信教育で小学校の教師を目指す)と、ライフセービングのインストラクター資格を有している高校教員によるBLS実習(AEDの使用・胸骨圧迫人工呼吸の練習)を行った。

昨年度、講演会や実習は曜日や時間の変更を余儀なくされたので、欠席者には当該講演会のDVD配布や資料配付によってレポートを提出させた。

第3表 2014年度の授業計画

回	金 1	授 業 計 画
1	5月8日	成城学園中学校 中村教務部長の講演「生徒の現状と課題」 合同
2	5月15日	東京都教育委員会 守屋文俊氏 (金) 18:10 ~ 19:30 合同
3	7月28日	卒業生の講演「教職大学院」 磯川君・柏木さん 月6 合同
4	9月26日	ガイダンス・履修カルテ 合同
5	10月24日	教育問題 グループワーク「グローバル化とは」
6	10月31日	教育用語の基礎知識① グループワーク「バカロレア」
7	11月7日	教育用語の基礎知識② グループワーク「良い教師とは」
8	11月13日	卒業生の講演「通信教育の教職課程」 黒田さん 木6 合同
9	11月21日	体罰 グループワーク「給食」
10	12月6日	BLS実習(AED・胸骨圧迫人工呼吸) 高校 島田先生 合同
11	12月5日	模擬授業①「社会」 小川君 合同
12	12月12日	模擬授業②「英語」 杉村さん 合同
13	12月19日	模擬授業③「国語」 玉田さん 合同
14	1月9日	履修カルテの作成
15	1月16日	まとめ 定期試験 50点 (参加度20点・レポート30点)

#### (4) 2015年度のシラバス

今年度も前倒しの講演会を3回行い、教育実習への自覚を促し良い意味での緊張感を持たせた。また、卒論等で忙しくなる学生のために、前倒して実施済みの授業の休講を後半に入れた。

昨年度、講演会の欠席者にはDVDを配布してレポートを提出させていたが、DVDの作成の手間を省き受講者の復習も出来るように、当日の講演会を教務部学務課よりWebでビデオ配信してもらうようにした。

第4表 2015年度の授業計画

回	金3	授 業 計 画
1	4月30日	ガイダンス・履修カルテ 木6 合同
2	5月11日	成城学園中学校 中村教務部長の講演「生徒の現状」 月6 合同
3	6月30日	東京都教育委員会 山田和人氏の講演 火6 合同
4	7月29日	卒業生の講演「新人教員」 小池さん・上田君 水6 合同
5	9月25日	ガイダンス グループワーク「文化系大学の存在意義」
6	10月2日	教育問題 グループワーク「英語教育の早期化」
7	10月9日	貧困の連鎖 グループワーク「修学旅行の欠席」
8	10月23日	児童虐待 グループワーク「躰と体罰」
9	10月30日	教師として、そして社会人として グループワーク「礼儀」
10	11月6日	模擬授業①「英語」 馬島さん
11	11月13日	模擬授業②「社会」 高橋君
12	11月20日	模擬授業③「社会」 菅岡君
13	11月27日	卒業生の講演会「教職大学院」 福山君・船見君 金6 合同
14	12月4日	まとめ・履修カルテ
	12月11日	休講(4/30 済 ガイダンス・履修カルテ) 合同
	12月18日	休講(5/11 済 中学教務部長) 合同
	1月8日	休講(6/30 済 東京都教育委員会) 合同
15	1月15日	まとめ・定期試験 50点 (参加度20点・レポート30点)

#### (5) 2016年度のシラバス(案)

来年度のシラバスは未定であるが、今年度よりも前倒しを増やし、より緊張感と自覚を持たせて教育実習へと送り出したい。また、緊急の事故に即座に対応できるように、BLS実習を教育実習の前に実施したい。

第5表 2016年度の授業計画（予定）

回		授 業 計 画
1	前期	ガイダンス・履修カルテ
2	前期	成城学園中学校 教務部長の講演 合同
3	前期	東京都教育委員会 指導主事の講演 合同
4	前期	成城学園高校 生活部長の講演 合同
5	前期	教師として、そして社会人として グループワーク「礼儀」
6	前期	卒業生の講演会「新人教員」 合同
7	前期	BLS実習(AED・胸骨圧迫人工呼吸) 合同
8	後期	卒業生の講演会 合同
9	後期	教育問題(時事)
10	後期	場面指導①
11	後期	場面指導②
12	後期	模擬授業①
13	後期	模擬授業②
14	後期	模擬授業③
15	後期	まとめ・履修カルテ・定期テスト

## 2. 履修カルテ

教職課程の総仕上げである「教職実践演習」の履修に向けて、教職課程登録学生が各自の履修履歴を把握し、教職への適正について自らを省みながら、教職に向けての自分自身の課題を更新して行くために自分で作成する書類である。大学によっては「履修の記録」や「教職ポートフォリオ（作品や書類を入れるファイル）」とも呼ばれている。

本学では Excel ファイルで Web 配信し、データの入力は PC または手書きのいずれも可能で、クリアファイルの表紙を付けて提出する。その構成は

- ① ガイダンス・出席記録
- ② 教職に関する科目の履修記録

- ③ 教科に関する科目の履修記録
- ④ 教職および教科に関する科目以外(日本国憲法・外国語コミュニケーション・情報機器の操作・スポーツウエルネス実技)の履修記録
- ⑤ 教育実習・・・実習前後の記録、担当教員による評価
- ⑥ 教職実践演習・・・履修前後の記録、担当教員による評価
- ⑦ 介護等体験・・・実施記録
- ⑧ ボランティア活動・・・実施記録

となっており、「履修カルテ」に書き込みながら、自分自身の物の見方や考え方の変容、教職観の深まりを確認し、毎年、自己課題を更新していく。そして、この繰り返しによって、各自の目指す教師像に必要な資質能力を形成していく。

「履修カルテ」は教育実習時に持参して常に自分の学びを振り返り、卒業時には担当教員が評価を確認し返却している。

### 3. 今後の課題

#### (1) 「教職実践演習」について

移行錯誤しながら模索しているが、惰性と自己満足に落ち入らないように、せめて3年毎ほどの見直しが必要である。特に、各大学での運用と課題を調べて実践例の研究が急務である。

##### ① 開講時期について

「教職実践演習の実施にあたっての留意事項」により、「原則として、4年次の後期に実施」と指摘している。教職課程のまとめとしての意義はあるが、後期に教育実習を行う学生（本年度は60名中の8名）への質的な保障の責任が残る。また、今年度より4年生の就職活動時期が3ヶ月後ろ倒しに成り、従来4月の面接などの選考活動解禁が8月に繰り下げられ、就職活動の長期化によって教育実習や授業にも影響が出ている。

本講座は、その趣旨から教育実習前に実施する必要がある。秋以降に

就職が決まり（教職以外の学生が多い）学生のモチベーションが下がる中での講義よりも、4月からの前倒しで教育実習への自覚を促すようにしたい。また、出来れば3年生までの前倒しで、教職に対する自覚と問題意識を高めたい。4年生後期でのまとめは、各教科での「教育実習」の講義で「総まとめ」は可能であろう。

## ② 外部講師による講演会について

教育委員会や外部講師（現職中高校の教員・卒業生）による講演会は、教職の意義・教員の役割・現場の生の声を伺うことができ、大変に有意義で学生の評価も高かったので、前倒しで来年度も継続したい。しかし、講師の都合上、通常の授業時間では実施が難しく、曜日を変更したり開始時間が6時間目になることが多く、早めに告知しているが欠席せざるをえない学生もいる。その学生には、講義をWebでビデオ配信し感想文を提出させているが、その補習を含め欠席者の取り扱い等が課題である。

## ③ 評価について

「履修カルテ」での自己評価・課題・試験（30分、50点満点）・授業への積極的参加度等で総合的に判断し、教員としての適格性や意欲について評価する。しかし、前記の欠席者や就職活動中の学生への評価に苦慮している。

本講座は2コマで開設されているので、担当教員間での連携を深めてそれぞれのシラバスや評価についての確認が必要である。また、通年で開設している4年生の「教育実習」講座と、シラバスを含めての整合性をどの様にするかが大きな課題である。

## (2) 「履修カルテ」について

教職科目の履修、教職キャリアの履修、介護等体験、教育自習等、すべての学びについて「履修カルテ」に書き込み、自分自身のものの見方や考え方の変容、

教職観の成長と深まりを確認するために、紙媒体（A4でのファイル）で提出する。そして、学生諸君には卒業式の時に教員免許状と共に返却しているが、今後の教職課程を検証するために大学教務部にもカルテ資料（デジタル化したもの）を保管する必要があるので、その具体的な方法について早急に検討したい。

カルテだけでは明示できない教員としての資質をどの様に評価をするのか、教科科目の担当教員の評価記載方法、各評価における整合性、全学的な運用方法など、カルテの改善を含めて課題は多い。

### 参考資料

文部科学省中央教育審議会「今後の教員養成・免許制度の在り方について」、答申、2012年

徳島文理大学「教職ポートフォリオ」、徳島大学全学共通教育センター、2012年

関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会『私立大学における「教職実践演習」の運用と課題』、第三研究部会報告書、2012年

徳田光治「教職課程の現状と課題」、『成城大学共通教育論集第6号』、成城大学共通教育研究センター、2013年

徳田光治「大学と初・中・高校との連携」、『成城大学共通教育論集第7号』、成城大学共通教育研究センター、2014年

成城大学「シラバス」、全学共通教育科目教職課程、2015年